



# 子どもたちが 安心して育つまち札幌に

— 子どもが健康被害にあわないために —

- 目次 —
- ・札幌市議会報告
  - ・生きづらさに寄り添う社会へ
  - ・ゲノム編集トマトに異議あり
  - ・学校など投票所の出入り口に常設スロープ、手すり設置を!



消費者庁、文科省、厚労省、経産省と意見交換  
(第1衆議院会館会議室、2018年12月)

市民ネットワーク北海道は、子どもたちが安心して学校で学び、過ごせるよう当事者とともにシックスクール問題等に取り組み、近々、子どもを取り巻く生活環境において「香害」や「集団フツ素洗口」等、新たな問題が明らかになっていきます。子どもは自分の力で環境を選ぶことはできません。子どもが「安心して生きる」「豊かに育つ」権利等が保障されている札幌市子どもの権利条例に基づき、子どもの最善の利益が守られる環境づくりが急務です。

**香りによる健康被害を防ぐ**

柔軟剤や消臭剤、手洗い洗剤等の香りにより頭痛や吐き気など健康被害を受け、子どもが学校に行けないなど「香害」が社会問題化しています。この間、国に対し、3万筆を超える署名を提出するとともに「香害」の周知徹底や香料の成分表示等を要望し意見交換を行ってきました。また、札幌市には、健康被害を受けている当事者とともに「香害」ポスターの作成等を要望。さらに、2020年には学校や公共施設の洗浄剤調査を行い、無香料で無添加の石けんの使用を要望するなど活動をすすめてきました。このような中、市民の声を受けて、21年8月、消費者庁、文科科学省、厚生労働省、経済産業省、環境省が「香害」啓発ポスターを作成しました。

国及び自治体においては、香りによる健康被害について実態を把握するとともに「香害」への理解をさらに広げるべきです。



国が作成した啓発ポスター (2021年)

## 学校等における 集団フツ素洗口にNO!

市民ネットワークは、子どもへの健康被害が懸念されるフツ素洗口を進めないことを提案し、現在、札幌市立の学校等でのフツ素洗口は行われていません。WHO(世界保健機構)では「6歳未満のフツ素洗口は禁忌」(絶対行ってはいけない)とされており、洗口液に使用するフツ素は劇薬です。フツ素洗口による吐き気や腹痛、下痢など急性中毒症状を訴える声もあがっています。また、学校等で実施することになれば強制力が働き、子どもが自分だけ「洗口しない」とは言いづらい環境になること、さらに、同調圧力からいじめにつながることも懸念されます。

札幌市においては、12歳の永久歯でむし歯を経験した歯の本数は2010年度1.49本から20年度0.91本とすでに減っています。むし歯予防のためには、歯や口腔の健康づくりに向けた食生活や歯磨き習慣などが重要です。健康被害が懸念されるフツ素洗口は、学校等の集団においては今後とも行うべきではありません。

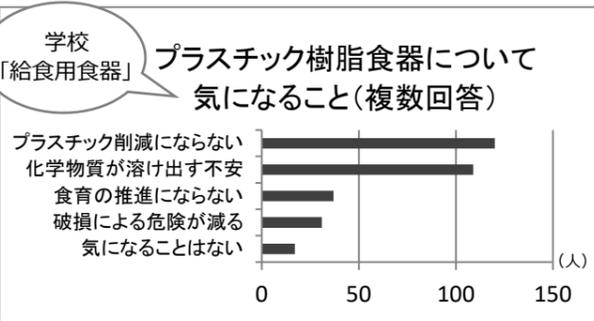
※フツ素洗口  
洗口液(5〜10ml)を30秒〜1分間、クチュクチュウがいをします。誤飲する子どもも多いことが指摘されています。

## 「給食用食器」 プラスチック樹脂変更 に異議あり

札幌市立小中学校の「給食用食器」は、現在、強化磁器が使用されていますが、プラスチック樹脂への変更が検討されています。プラスチック樹脂食器の課題を明らかにするため、市民団体が小中学生の保護者等を対象に21年6、7月、緊急アンケートを実施、186名が回答しました。食器変更の検討について知らなかった人は89%、自由記述には「強化磁器の方がおいしく食べられる」「子どもたちの健康への不安を感じる」「学校でプラスチックを推奨するのはおかしい」等の意見がありました。

この結果を踏まえ、食器を検討する場合は、子どもたちや保護者へ情報提供するとともに、その意見を反映すること、環境負荷がより小さい高強度磁器や木製の食器も検討すること、化学物質が溶け出す不安のない材質を選ぶことなどを札幌市に要望しました。

強化磁器食器は、料理の温かさが伝わり、食育の面からも優れています。世界各国がSDGsをめざす中、脱プラスチックの観点からも「給食用食器」のプラスチック樹脂への変更は行うべきではありません。



## 家庭に出向く、新たな子育て支援スタート!

札幌市では約300か所で子育てサロンが開催される等、多くの子育て世帯が子育て支援を利用しています。しかし、中には「サロンに参加しづらい」という方や「相談というほどではないが、少し話を聞いて欲しいだけ」というように、行政が提供するこれまでの子育て支援サービスの利用にハードルの高さを感じている方もいます。こうした子育て世帯が孤立することがないように、家庭に出向き、保護者に寄り添って話を聞いたり、一緒に家事や外出をする等の支援が必要です。

札幌市が2022年1月から試行実施する訪問型子育て支援事業では、研修を受けたボランティアが家庭を訪問しますが、保護者が精神的に不安定な場合などには専門の相談機関につなぐなど、保護者が地域の中で安心して子育てができるよう、しっかりフォローしていくことを求めました。

## 札幌市議会報告



札幌市議会議員  
石川さわ子



「さっぽろ子育てアプリ」を活用してみませんか



子育てに関する制度、イベント、子育てサロン等の情報の他、プッシュ通知や子育て日記機能など子育て情報の管理を手軽に行うことができます。

切手は  
カンパで  
お願い  
いたします  
(63円)

0 6 0 0 0 4 1

札幌市中央区大通東2丁目15-1  
サラサビル4F  
札幌市議会  
市民ネットワーク北海道 行き